

としな 正月の年縄を手作りで 年中行事再現「年縄づくり」

年中行事再現「年縄づくり」は12日、みちのく民俗村体験厨房で行われました。「年縄」とは正月に用いられる「しめなわ」のことで、昆布や煮干し、松の葉などを付け玄関などに飾るものです。毎年12月に年中行事の再現として博物館が開催。今年は約30人が参加しました。講師の小笠原勤さん(小島崎)の説明の後、年縄を製作。参加した田村日香里さん(黒沢尻東小2年)は「難しいと思ったけどできてうれしい。家に飾ります」と話していました。

完成した年縄を手に笑顔をみせる日香里さん(中央)



訪問診療の様子をスライドで表示しながら講演を行う花戸医師

在宅医療について考える 市民講演会

市民講演会「いのちをつなぐ命のバトンリレー」は5日、さくらホールで行われました。高齢化社会を迎え在宅医療の重要性が増す中、在宅医療や在宅での看取りについて市民に理解を深めてもらうことを目的に開催。ホームケアクリニックえんの千葉恭一院長が市の在宅医療に関する基調報告を行ったほか、滋賀県の永源寺診療所の花戸貴司医師と写真家でジャーナリストの國森康弘氏が在宅医療や看取りに関する講演を行い、参加者は真剣に聞き入っていました。

詩人・歌人・俳人が一堂に 朗読&トークの夕べ

朗読&トークの夕べは5日、日本現代詩歌文学館で開催されました。詩人の三角みづ紀さん、歌人の大森静佳さん、俳人の杉田菜穂さんをゲストに迎えそれぞれが作品などを朗読後、トークセッションを行いました。3人とも北上を訪れ、今年初めての雪景色を見たと話し、セッションではこれまでの経歴や作品を作り始めたきっかけ、作品の創作方法などを披露。訪れた人たちは普段聞くことのできない話題に熱心に耳を傾けていました。

俳句を朗読する杉田さん。会場を訪れた人たちは熱心に聞き入っていました



テープカットを行い通行再開を祝う関係者の皆さん

8カ月ぶりに通行再開 国道107号開通式

国道107号開通式は11月28日、道の駅錦秋湖で行われました。式典には細井洋行西和賀町長や高橋市長ら関係者約50人が出席。テープカットが行われ通行が再開されました。国道107号の通行止めは3月の土砂崩れが原因。復旧は片側1車線の交互通行となり、今後は2車線の全面復旧を目指し工事が継続されます。迂回路として秋田自動車道の北上西ICと湯田IC間の無料通行が可能でしたが、107号の通行再開により高速道路の無料通行は終了しました。

交通安全意識の向上を図る

交通安全の集い2015

交通安全の集い2015は1日、さくらホールで開催されました。同イベントは関係機関・団体および地域住民が一体となり、交通安全意識の向上を図ることを目的としています。式典では交通犠牲者に対する黙とうが行われ、交通安全ポスターコンクールの入選者などに賞状が授与されました。その後、(一社)日本自動車連盟岩手支部の藤田学氏が「JAFから見た『冬季の交通安全』」と題し講演。凍結路面の危険性を説明し、雪道での安全運転を呼び掛けました。

岩手県交通安全憲章を朗読する伊藤茜さん(江釣子小4年)



菅沢さんの熱のこもった説明に集中する児童たち

演劇を通じ表現力を 笠松小で演劇ワークショップを開催

NPO法人芸術工房主催の演劇ワークショップは11月26日・27日、笠松小学校で行われました。芸術体験を通し子どものコミュニケーション能力や自己表現力の育成を図ることを目的に、東京から舞台俳優の菅沢晃さん、大坂陽子さんを講師に迎えました。菅沢さんは「ウソの世界でも真実を知っていれば人の心や気持ちは動く」と講義。縄を使わずにイメージだけで大縄跳びを行うと、児童からは「縄が見えるように感じる」と驚きの声があがっていました。

今シーズンの安全を祈願

夏油高原スキー場安全祈願祭

夏油高原スキー場安全祈願祭は11月26日、同スキー場で行われました。関係者約70人が出席し、玉ぐしを奉納するなど安全祈願の神事が執り行われました。同スキー場は今シーズンから上級者向けの林間コース2本を増設。新たな顧客を開拓するとともに、秋田県・岩手県の小学生に無料リフト券を配布するなど冬季スポーツの振興にも努めています。12月初めのまとまった積雪で、県内のスキー場に先駆け5日にオープンしています。

安全を祈願し玉ぐしを奉納する北日本リゾート(株)の菅原三多英代表



さまざまな実験装置を使いエネルギーについて説明する高木教授

エネルギーについて考える

きたかみ環境未来塾2015

きたかみ環境未来塾2015は2日、生涯学習センターで開催されました。市環境課が市の環境・エネルギーの取り組みについて報告を行った後、岩手大学工学部の高木浩一教授が「暮らしに役立つエネルギー教室」と題し講演。エネルギーの考え方や賢い使い方について、実験装置を用いながら解説しました。参加した小岩稜平さん(黒沢尻工高3年)は「高木教授が行っていた実験を学校で行っている実験の参考にしたい」と話していました。